

## MySQL 5.1.60 リリースノート（日本語翻訳）

### 機能の追加と変更

- **Advanced GPL** RPM パッケージから **Advanced** RPM パッケージへのアップグレードが機能しなかった。Linux では現在、`rpm -U` を使用して、インストール済みの MySQL 製品を同じリリースファミリの別製品に置き換えることが可能になり、先に `rpm -e` を使用して旧製品を削除する必要はなくなった（Bug #11886309）。
- **MEMORY** テーブルの作成時間が、**INFORMATION\_SCHEMA.TABLES** テーブルの **CREATE\_TIME** カラムと **SHOW TABLE STATUS** 出力の **Create\_time** カラムで使えるようになった（Bug #51655、Bug #11759349）。

### 修正されたバグ

- パフォーマンス: **InnoDB ストレージエンジン**: 停止中または以下のステートメントで AHI をオフにするときに、**InnoDB** の **適応ハッシュインデックス** を割り当て解除するプロセスが高速になった。

```
SET GLOBAL innodb_adaptive_hash_index=OFF;
```

(Bug #13006367、Bug #62487)

- パフォーマンス: **InnoDB ストレージエンジン**: この修正では、**InnoDB** のバッファプール操作についてインストルメント機能のコードのパフォーマンスが改善される（Bug #12950803、Bug #62294）。
- パフォーマンス: **InnoDB ストレージエンジン**: **InnoDB バッファプール** の管理コードが、**圧縮された** テーブルからのページの処理用に最適化され、バッファプールの **ウォームアップ** 期間に特に発生する可能性があった速度の低下が改善された（Bug #12610930、Bug #61341）。
- **InnoDB ストレージエンジン**: **gcc** 4.6.1 の **InnoDB** ソースコードに影響するコンパイルの問題が修正された。影響を受ける **InnoDB** ソースファイルは、`btr/btr0cur.c` だった（Bug #13116045）。
- **InnoDB ストレージエンジン**: セカンダリインデックスを使用するルックアップが、特定の条件セット下で誤った一致を返す可能性があった。これは、Barracuda ファイル形式を使用するテーブルで、インデックスページ外に格納されている BLOB などの長いカラムについて、カラムプリフィックスに定義されているインデックスが関連する条件である（Bug #12601439、Bug #12543666）。
- **InnoDB ストレージエンジン**: **InnoDB** テーブルへの **UPDATE** ステートメントがハングする可能性があった。この問題は、**Barracuda** ファイル形式を使用し、**カラムプリフィックス** に複数のインデックスを持つテーブルに影響する。カラムプリフィ

ツクスの合計サイズがページサイズ（通常は 16KB）より小さい場合でも、[UNDO ログレコードのサイズがページサイズを超える可能性があった](#)。MySQL 5.5 以降では、このエラーが新しいコード `ER_UNDO_RECORD_TOO_BIG` で報告されるようになっていた。InnoDB プラグインを使用する MySQL 5.1 の場合、このエラーは既存のコード `ER_TOO_BIG_ROWSIZE` で報告される（Bug #12547647）。

- **InnoDB ストレージエンジン**: この修正では、MySQL サーバがハングする、または `long semaphore wait` メッセージで異常終了するケースが修正される（これは、同じ兆候が `CHECK TABLE` ステートメントで発生する場合とは異なる）（Bug #11766591、Bug #59733）。
- **レプリケーション**: 次のステートメントをこの順序で発行すると、ユーザスレッドと I/O スレッドの間でデッドロックが発生する可能性があった。

```
START SLAVE;  
STOP SLAVE SQL_THREAD;  
START SLAVE;
```

（Bug #11878104）

参考: Bug #44312、Bug #11752963、Bug #38715、Bug #38716 も参照。

- ゼロからバイナリへの、またはその逆の内部変換によって、精度の正しくない結果が生成される可能性があった（Bug #12911710）。
- **filesort** 操作によって生成される Valgrind 警告が修正された（Bug #12856915）。
- MySQL のディストリビューションにバンドルされている **libedit** ライブラリに対して以下の点が改善され、Windows を除き、MySQL でサポートされるすべてのプラットフォームで利用できるようになった。
  - UTF-8 入力に対して移動キーが機能しなかった。
  - キリル文字を使用する UTF-8 入力に対して、Word の移動キーと削除操作が機能しなかった。

UTF-8 入力の上書きモードで非ラテン系文字が文字化けした。  
長いクエリが原因で、ステートメント履歴ファイルが破損した。  
Alt キーを使用すると履歴操作が失敗した。

（Bug #12605400、Bug #12613725、Bug #12618092、Bug #12624155、Bug #12617651、Bug #12605388）

- Valgrind を有効にすると、**InnoDB** セマフォ待機のタイムアウトが長くなりすぎて失効する可能性があった（Bug #11765460）。
- `mysql_install_db` のヘルプメッセージで、`--defaults-file`、`--defaults-extra-file`、`--no-defaults` の各オプションがサポートされることが示されなかった（Bug #58898、Bug #11765888）。

- 長さゼロのソートキーを検出するために設計された表明が、キーセット全体がメモリに収まる場合にも発生した (Bug #58200、Bug #11765254)。
- テーブルの圧縮時に、[mysampack](#)によって **FULLTEXT** インデックスが破損する可能性があった (Bug #53646、Bug #11761180)。
- [mysam use mmap](#) が有効な場合に、[OPTIMIZE TABLE](#) によって **MyISAM** テーブルが破損する可能性があった (Bug #49030、Bug #11757032)。
- `--without-plugin-innobase` と `--with-plugin-innobdb_plugin` を使用して MySQL を構成し、組み込みの InnoDB ストレージエンジンを構築するかわりに InnoDB プラグインを構築しようとした場合に、[innochecksum](#) ユーティリティが構築されなかった (Bug #47337、Bug #11755544)。
- リンクの問題のために、**FEDERATED** ストレージエンジンプラグインがロードされなかった (Bug #40942、Bug #11750417)。
- Fedora で、`/var/lib/mysql/HOSTNAME.err` への特定のアクセスが SELinux のポリシーによってブロックされるため、起動時に次のメッセージでサーバがエラーになった: **Manager of pid-file quit without updating file** (Bug #37165、Bug #12927740)。

**FEDERATED** テーブルで、一部の挿入操作中にリモートテーブルへの接続が失われ、サーバがクラッシュする可能性があった (Bug #34660、Bug #11747970)。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。